

Solow model

I. 次のマクロモデルに関する各問いに答えよ. 導出過程を明記すること.

$$\text{財市場均衡式 } Y_t = C_t + I_t \quad (1)$$

$$\text{投資関数 } I_t = sY_t \quad (2)$$

$$\text{生産関数 } Y_t = AK_t^\alpha L_t^{1-\alpha} \quad (3)$$

$$\text{資本蓄積方程式 } K_{t+1} = I_t \quad (4)$$

$$\text{人口成長率 } \frac{L_{t+1}}{L_t} = n \quad (5)$$

下付きの t は時点を表す. Y は国民所得, C は消費, I は投資, K は資本, L は労働 (人口) である. $0 < s < 1$ は投資率 (定数), $0 < \alpha < 1$ は資本分配率 (定数), $A > 0$ は TFP (定数), $n > 0$ は租人口成長率 (定数) である.

1. t 時点の 1 人あたり資本を,

$$k_t = \frac{K_t}{L_t} \quad (6)$$

とおく. (2), (3), (4), (5), (6) 式を用いて, k_t の漸化式

$$k_{t+1} = \frac{sA}{n} k_t^\alpha \quad (7)$$

を導出せよ.

2. 平面 (k_t, k_{t+1}) 上に, (7) 式の曲線と 45 度線を図示し, 1 人あたり資本 k_t の移行過程を説明せよ.

3. 長期均衡での 1 人あたり資本 k^* を, s, A, n, α を用いて表せ.

4. t 時点の 1 人あたり消費を,

$$c_t = \frac{C_t}{L_t} \quad (8)$$

とおく. (1), (2), (3), (8) 式から,

$$c_t = (1-s)Ak_t^\alpha \quad (9)$$

となることを示せ.

5. 長期均衡での 1 人あたり消費 c^* が最大となる投資率 s^* を求めよ.

II. 次のマクロモデルに関する各問いに答えよ。導出過程を明記すること。

$$\text{財市場均衡式 } Y_t = C_t + I_t + G_t \quad (1)$$

$$\text{投資関数 } I_t = s(1 - \tau)Y_t \quad (2)$$

$$\text{生産関数 } Y_t = AK_t^\alpha G_t^{1-\alpha} \quad (3)$$

$$\text{政府予算制約式 } \tau Y_t = G_t \quad (4)$$

$$\text{資本蓄積方程式 } K_{t+1} = I_t + (1 - \delta)K_t \quad (5)$$

下付きの t は時点を表す。 Y は国民所得, C は消費, I は投資, G は政府支出, K は資本である。 $0 < \tau < 1$ は所得税率 (定数), $0 < s < 1$ は投資率 (定数), $0 < \alpha < 1$ は資本分配率 (定数), $A > 0$ は TFP (定数), $0 < \delta < 1$ は資本減耗率 (定数) である。

1. (1), (2), (4) 式から, 消費関数

$$C_t = (1 - s)(1 - \tau)Y_t \quad (6)$$

が得られることを示せ。

2. (3), (4) 式から, t 時点の資本と国民所得の間に,

$$Y_t = (A\tau^{1-\alpha})^{\frac{1}{\alpha}} K_t \quad (7)$$

の関係が成立することを示せ。

3. t 時点における資本成長率を,

$$g_t = \frac{K_{t+1} - K_t}{K_t}$$

とおく。(2), (5), (7) 式を用いて, 成長率 g_t を s, τ, A, δ を用いて表せ。

4. 0 時点における資本 K_0 が与えられたとき, 0 時点の消費 C_0 を最大にする税率 τ を求めよ。

5. 3 の成長率 g_t を最大にする税率 τ を求めよ。

I. 1.

$$K_{t+1} = sAK_t^\alpha L_t^{1-\alpha}$$

の両辺を $L_{t+1} = nL_t$ で割ると,

$$k_{t+1} = \frac{sA}{n} k_t^\alpha$$

2. 略

3.

$$k^* = \left(\frac{sA}{n} \right)^{\frac{1}{1-\alpha}}$$

4. $C_t = (1-s)AK_t^\alpha L_t^{1-\alpha}$ より, $c_t = C_t/L_t = (1-s)Ak_t^\alpha$.

5. 3 より,

$$c^* = (1-s)A \left(\frac{sA}{n} \right)^{\frac{\alpha}{1-\alpha}}$$

c^* が最大になるのは, $s^* = \alpha$ のとき.

II.

1. $C_t = Y_t - I_t - G_t = (1-\tau)Y_t - s(1-\tau)Y_t = (1-s)(1-\tau)Y_t$.

2. $Y_t = AK_t^\alpha G_t^{1-\alpha} = AK_t^\alpha (\tau Y_t)^{1-\alpha}$ より, $Y_t^\alpha = A\tau^{1-\alpha} K_t^\alpha$. したがって, $Y_t = (A\tau^{1-\alpha})^{\frac{1}{\alpha}} K_t$.

3. (5), (2), (7) 式より,

$$\begin{aligned} g_t &= \frac{I_t - \delta K_t}{K_t} \\ &= \frac{s(1-\tau)(A\tau^{1-\alpha})^{\frac{1}{\alpha}} K_t - \delta K_t}{K_t} \\ &= s(1-\tau)(A\tau^{1-\alpha})^{\frac{1}{\alpha}} - \delta \end{aligned}$$

4. (6), (7) 式より, 0 時点の消費は,

$$C_0 = (1-s)(1-\tau)(A\tau^{1-\alpha})^{\frac{1}{\alpha}} K_0$$

C_0 が最大になるのは, $\tau^* = 1 - \alpha$ のとき.

5. 3 の g_t が最大になるのは, $\tau^* = 1 - \alpha$ のとき.